



流木の再資源化によるコスト削減と雇用促進の取組み

12月18日(日)に県政番組「いわて情報ステーション(テレビ岩手)」で「ゴミをチャンスに!流木リサイクルの取組み」が放送されました。番組では、綱取ダムの湖面に溜まる流木をバイオマス燃料としてリサイクルする取組みが紹介されました。この取組みは、流木処理のコスト削減のほかにも新たな雇用の創出やエネルギー資源の循環利用など、様々なメリットが生まれる画期的な取組みとして注目されています。

※放映内容は番組ホームページでご覧になれます。 <http://www.tvi.jp/jouhou/200512.html#1218>

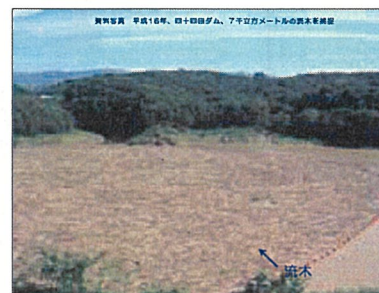
【当日の取材風景】



【取組みの概要】

岩手県が管理するダム貯水池から回収される流木や塵芥類に関しては、従来、多くを産業廃棄物として処理していました。ダム以外でも、河川などで発生するこのような流木などの廃棄物の処理にかかるコストは1トン当たり数万円を要しており、平均的な年でも県全体では数千万円に達するものです。このコストの削減と資源の有効利用の観点から流木などのリサイクルを進めています。

従来から薪として利用できるものについては、一定の長さに玉切りの上、集積して県民へ無料で配布を行っています。利用者は燃料のほか、ガーデニング用の植木鉢などに加工して使用しているとのこと。この薪の配布は薪ストーブやガーデニングを趣味としている環境に対する関心の高い人々をダムに呼び込むという思わぬメリットもありました。ただし、貯水池で回収される物のうち薪となる流木はおおよそ50%で、残りの半分は小枝や、葉などとともにビニール袋やペットボトルなどが混じったものです。このような薪などに利用することが出来ないものについて



現在の状況

年間6千万円を超える処理費用

- ・下流や沿岸地域を守るためダムや、上流河川では年に7,400m³にも上る流木を回収しています
- ・回収された流木は多量のビニール片などが混じっているため、そのままでは利用することが出来ません

は、粉碎して熱と圧力を加えることで粒状の燃料「木質ペレット燃料」や「ブリケット燃料」にすることを試行しています。昨年度は試験的に3立方メートル(1,000kg)の流木残物をペレット化したところ、約400kgの木質ペレット燃料を得ることが出来上がり、品質も市販のものに近いものが出来上がりました。

流木残物をペレット化するにはあたっては、燃焼による有害物質の発生を避ける目的から、混入しているビニールやプラスチックなどを、除去しなければなりません。ただし、この工程は機械化することができず、手作業に頼らざるを得ません。

改善される点

10%のコスト削減を目標としています

- ・廃棄物を細かく分別することにより廃棄にかかる運送、処理のコストを削減することが出来ます
- ・コストの削減により、より広範囲を高品質に維持管理することが可能となります

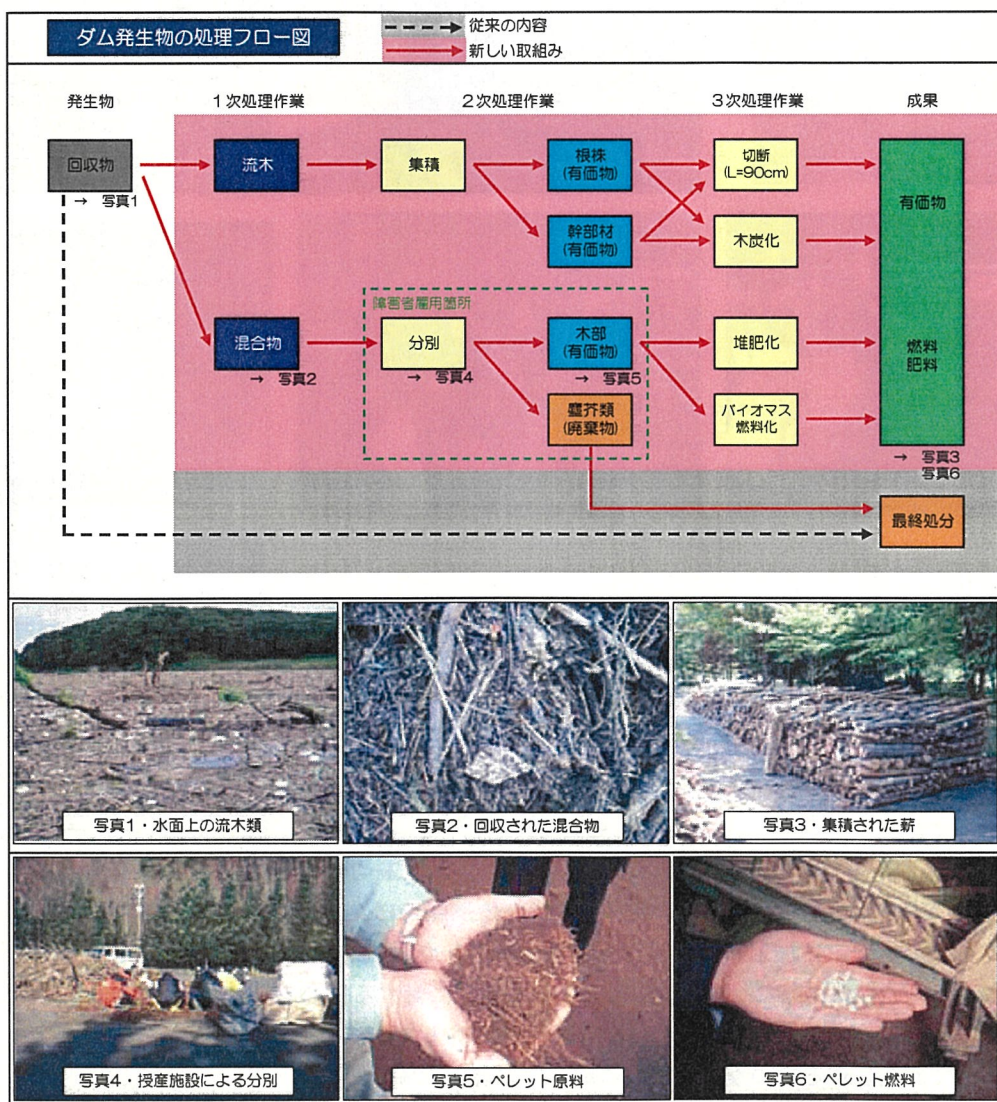
新たな雇用を創出します

- ・回収された流木等を有効に利用するためには確実な分別が不可欠です
- ・分別作業は人間の目で確かめながら行わざるを得ません

資源循環がはかられます

- ・コスト削減のメリットのほか、薪炭材やバイオマス燃料、肥料などが成果物として得られます
- ・これらを社会へ還元することにより炭酸ガス排出を減らすことが出来ます

この手作業による分別作業は、障害者の就労機会拡大をはかる事業の一環として保健福祉部と協調して、県内の障害者授産 NPO へ委託しています。今年度は木質ペレット以外にブリケット燃料化や、堆肥化などの検討を行い、あわせて、作業の歩掛や廃棄物処理にかかる規制などに関する資料を取りまとめ、県内のほかの公共施設管理事業者へ情報を提供していく予定です。県内に現存する約60箇所のダムすべてで取り組んだと仮定した場合、木質ペレット燃料にして年間約1,500トン(重油換算720キロリットル)を得ることが出来ます。



お問い合わせ先：県庁 河川課 019-629-5906